

# コロナ禍後の社会の 不可逆変化について

茨城県保険医協会副会長 志村 俊晴

もう後には戻れない、コロナ禍後の社会の不可逆変化について検討しました。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、多くの企業が従業員にテレワークを勧めました。仕事をする場所や時間に制限がなくなることが明らかになり、次世代の働き方、それは在宅勤務が一般的になるのかもしれませんが。

「顔の見える地域活動」が必要でしょう、マスクの着用や社会的距離の確保が求められるため、人間関係が希薄となりました。顔の見える交流が地域社会の強化につながるようになるでしょう。心の病気にかかる人が増えてしまったのは大変気がかりです。

感染予防、免疫力の増強、健康意識の高まりが見られ、リモートヘルス

ケアの需要が増加しました。テレビ電話やチャットなどを使って、医師とコミュニケーションを取ることができ、通院が難しい人々（山間僻地、高齢者など）にとって非常に便利だとわかってきました。オンライン診療もいずれ社会的に普遍される兆しでしょう。

ガソリン価格の高騰、輸入食品や食料、電力価格に大きな社会不安が発生しました。そのため、食料自給率（圃場整備、AI Farming）や次世代エネルギーの開発が急務です。

多くの学校がオンラインでの授業を実施しました。オンライン教育が一般的になり、教育のスタイル（タブレットやプレゼン形式）が変わっていくことになるのでしょうか。今、大学の講義出欠を出席カードではなく、ICチップ付き学生証やバーコードで行っています。オンラインでの仕事や買い物（クレカ決済、セルフレジ）、SNS、ラインなどでのコミュニケーションが一般的になりました。今後も進展（入店と同時に個人認証など）し、無人コンビニなどになってしまふでしょう。

以上のように、コロナ禍により社会は大きな変革を遂げました。これらの変化は、さらに進んでいくことが予想され、社会の在り方が従前と大きく変わっていくことは否めません。

私達は時代変革の証人になるのです。